

## 第2回 第9期西尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会 会議録

日時：令和5年9月25日（月）  
午後1時30分から午後2時40分  
場所：西尾市役所 53 会議室（5階）

### 【事務局】

本日はお忙しい中、会議にご出席いただきありがとうございます。ただいまから「第2回西尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会」を開催いたします。本日は古田委員より欠席のご連絡をいただいています。会議開催にあたり資料を事前に郵送配布をさせていただきました。また追加資料として、本日机上に「資料3 西尾市の近隣市町との比較」、「資料4 西尾市の高齢者の移動手段について」をお配りしておりますのでお手元がない方はお申し出願います。なお、本日は6名の傍聴の希望がありましたのでご了承ください。それでは早速会議に入らせていただきます。策定委員会規則第5条の規定により、これより先の議事進行については宮崎会長にお願いいたしますのでよろしくお願いいたします。

### 【宮崎会長】

それでは議事を進めさせていただきます。それではまず「(1) 第8期計画の評価及び課題について」、事務局より説明をお願いします。

## 1 議題

### (1) 第8期計画の評価及び課題について

（「第8期計画の評価及び課題」 資料に基づき事務局より説明）

### 【宮崎会長】

それでは「第8期計画の評価及び課題について」ご質問、ご意見はございますでしょうか。

### 【稲垣委員】

10 ページ「(2) 家族介護者支援の推進」に「家族介護慰労金の支給については、令和3年7月以降に申請がない状況」と記載がありますが、せっかくのお金がいただけるのに令和3年7月から申請がないのはどういうことでしょうか。その原因、どの程度の金額がいただけるのか

など、もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

#### 【事務局】

市民税非課税世帯に属する要介護4または5と判定された高齢者を、過去6カ月間介護保険のサービスを使わずに在宅で介護している家族に対して家族介護慰労金をお支払いしております。支給金額は年間10万円です。支給対象者の基準が高く、介護4、5になりますと介護保険を使わないということが厳しいこともあり、今のところ申請がない状況でございます。

#### 【斎藤委員】

私は西尾市の外から来ておりますが、事実関係を教えていただきたいことが3点あります。まず1点目、3ページ「(2) 地域における支え合いの体制づくり」の達成状況ですが、令和4年度に支え合い活動を行う地域支援団体数が見込みの倍以上増えている一方で、支え隊の人数がかなり減っています。住民の目線から見て、支え合いの状況については問題がないのか、あるいは人材が減っていることで不足ニーズが起きているのか、その辺りを教えていただけますでしょうか。

2点目、5ページの健康づくりの達成状況で、後期高齢者の受診率が23パーセントとあります。必ずしも高くはないと思いますが、西尾市では集団の受診形式なのか、指定医療機関でかかりつけの先生に受診する形式なのかを教えてください。

3点目、8ページ「認知症施策の充実」の達成状況で、認知症予防事業の参加者数が500パーセントと設定値をかなり上回っていますが、ここについても補足で教えていただけたらと思います。以上です。

#### 【事務局】

まず1点目、2ページ目の地域における支え合いの体制づくり、地域支援団体について回答させていただきます。地域支援団体とは、高齢者支え隊の中で団体を組んでいただいたサークルのようなものなのですが、それで高齢者の日常生活の支援をしていくというものでございます。例えば草刈りであったり、天井の高い場所の電球を代わりに交換したり、それが令和4年の時点では13団体あるということです。令和3年時点で高齢者支え隊の養成講座を受講した方々は257名でした。昨年度その方たちに改めて意向調査を行った結果、自身の年齢や健康上の理由から活動辞退を申し出る方々がいらっしや、現在「高齢者支え隊」の登録者は155名と減っております。この支え隊の活動が市民の皆様へ周知が十分されていないという現状もございますので、これからも粘り強く周知していくことによって、活動が活発化していくといいなと考えています。

### 【事務局】

ご質問の2点目、受診率については保険年金課が担当になりますが、昨年度まで私が健康課にいましたので分かる範囲でご説明させていただきます。西尾市の後期高齢者の検診につきましては、集団検診と、市内の医師会にご協力いただいている医療機関、つまり個別と集団の両方を実施しています。

最後の3点目、認知症予防事業の参加者数が増えたことについて、第8期の計画で立てた時の事業よりさまざまな認知症予防事業が増えており、そこで実際の今までの事業のカウントをしたのでこれだけの数になっています。事業数が増えたことで、当初の予定、目標値より大幅に増えたという状況です。

### 【宮崎会長】

「高齢者支え隊」が市民に知られていないことは長寿課の別会議でも問題になっていました。あまり周知されてないというかまったく知られていないので、そういう部分が大きいと思います。

### 【三浦委員】

今、「高齢者支え隊」が知られていないとお話がありました。この実績値には登録者数を入れておられますが、利用者数については把握しておられるのでしょうか。

それから、支え隊は市が中心になるというよりも、どこかに委託をしていると聞いたような気がするのですがどうでしょうか。

また、同じような支え合い活動を行う地域支援団体が令和4年度に増えたとのことですが、8つ増えた経緯についても教えていただきたいです。

### 【事務局】

高齢者支え隊の団体数が増えたことについてですが、これは令和3年から徐々に増え始めてきて、地域包括支援センターでもだいぶ力を入れてくれています。各管轄団体の人たちが、高齢者支え隊というコンセプトがあることを知って、ではうちもやってみようかと徐々に増えていきました。

### 【三浦委員】

地域支援団体ではなく、高齢者支え隊ですか。

**【事務局】**

地域支援団体というのも、高齢者支え隊の講座を終えた人たちが個人でサークルのように団体を組んでいるものです。分かりやすくするためにこの名称を資料の中では使っております。団体としては令和4年度で13団体、令和3年度より8団体増えております。

**【三浦委員】**

地域包括支援センターの尽力で増えているという理解でよろしいですか。またそれはどちらの包括でしょうか。

**【事務局】**

そうです。7つの包括全てで力を入れて、自分たちが管轄しているお年寄りの方たちに説明して、地域支援団体が増えております。

**【三浦委員】**

各包括、1団体ぐらいつ増えているということですか。

**【事務局】**

いえ、包括によって違いが見受けられます。やはり活発なところがあったり、そうでないところがあったりしますが、全包括がそれぞれできるよう、団体が増えていくように力を入れている最中です。

**【三浦委員】**

頑張ってくださいている包括のやり方を、みんなで共有して横展開すればますます増える可能性が高いと思います。

**【事務局】**

ありがとうございます。各包括の連絡協議会というものを月1回実施しております、その中で活発に意見交換等しております。あなたの包括はどのようにやっているのですか、といった話し合いを行い、意見交換を十分にしております。

この支え隊事業は、NPO法人「やらまいか人まちサポート」というところが一手に引き受け

てやっています。

**【三浦委員】**

講座は毎年ひらいておられるのですか。

**【事務局】**

講座は毎年ひらいております。年間2回やらせていただいております。

**【三浦委員】**

利用者数の実績は把握しておられますか。

**【事務局】**

利用者数についてはまだ発表できる数がなく年間10件程度ですが、これからどんどん増やしていきたいと思っております。先ほど会長からもご指摘いただきましたけれど、まだこういったサービスがあるという周知ができていないこともありまして、利用者がなかなか伸びてこないというのが現状です。

**【宮崎会長】**

「支え隊」を呼ぶとき、どうやって頼むのですか。

**【事務局】**

まずNPO法人「やらまいか人まちサポート」に電話を入れていただいて、どんなことで困りか伝えていただきます。そこでマッチングをして、お困りのお年寄りのサポートができる団体に現場へ動いていただくシステムになっています。

**【宮崎会長】**

そこへ連絡すると「支え隊」が来る、ということはホームページや広報などには載せてあるのですか。

**【事務局】**

今年も広報に載せております。また、毎年発行している西尾市の介護予防サービスの冊子のい

ちばん後ろのページにも載せて周知を図っております。

**【斎藤委員】**

このNPO法人に支え隊の依頼がいくはずですが、利用したい高齢者本人からの依頼なのか、あるいはその地域包括とそのNPOさんが繋がりがあって包括の予防ケアマネジメントの中で利用ができるようになっているのかなど、その辺りもう少し教えていただきたいです。

また、その生活支援の中に移動支援は入っているのでしょうか。

**【事務局】**

依頼の仕方ですが、もちろん個人から依頼がある場合もありますし、それから包括がお世話する中で困っていることをNPO法人に連絡する、というようなケースもあります。依頼の仕方については1つ決まったやり方があるってこの通りにやってくださいということではありません。いろいろな方向から依頼があるということです。

また、移動支援は今のところ、サービスとして入っておりません。

**【斎藤委員】**

在宅介護実態調査などを分析すると生活支援ニーズはそれなりにあると思うのですが、実際の依頼件数が少ないということで、どうしてそういう乖離があるのか知りたいと思いました。ありがとうございます。

**【名倉委員】**

まだ制度の利用者ではありませんが、比較的用户に近い立場で2点質問させていただきます。まず1点目、今回の資料1は、前期、第8期の評価と課題という形でまとめられていて、かなりさまざまな膨大なデータを基にまとめられていると思いました。本当にご苦労だなと思います。この後で説明がある資料2で、実はこの資料1の項目に応じて、再度さらに細かい項目で詳細に表が書かれています。さらにその後ろに自己評価という形でA、Bとありますが、私の勝手な推測では、担当者の方はこれが昨年度実績的にA評価はかなりうまくできました、B評価はちょっと課題がある、と推定しました。説明される前にこんなこと言ってしまっは申し訳ないのですが、この資料1が課題と評価なのでしたら、細かい項目に対して、できなかったところに対して、その項目を入れるべきだろうと思っています。この資料1で書かれているのはその通りだと感じてしまったので、今後の分析では自己評価でBになったところはここが足らなかったから

こうしたいという書き方をしていただけると非常に分かりやすいのではと感じました。

もう1点は、7ページ「(4) 緊急時における体制の強化」ですが、この部分でいちばん問題になっているのは、災害時に避難行動を起こす名簿を作られているということで、私も数年前に自治会をしていて承知しております。ただ、その名簿というのが各町内会長に渡されるのですけれども、実質的にこの名簿をもらったらどうするんだというのが自治会の中の方でもかなり議論になっています。実際には今のところ災害は起きていませんが、起きた時にどのようにして展開して利用していくのが曖昧で、実際どうするのかということが私のところでも議論になっていました。福祉計画に関してはこの名簿を作るだけではなく、その後のフォローや具体的な共通した対応等をご議論いただきたいと思います。6月2日に矢作川が大洪水になりかけて、西尾市内に關しても全員避難のレベル4、高齢者等避難に関してはもう1つ前の段階のレベル3で避難を行わないといけない状況になりました。そこを飛び越えたレベル4の事例は今まであまりありませんでした。危機管理課の話になってしまうかもしれませんが、その時に実質的にどういう避難行動ができて避難所に来ていただいてフォローができたか、整理して教えていただければと思います。以上です。

#### 【宮崎会長】

危機管理課のお話もありましたが、長寿課としてコメントできますか。

#### 【事務局】

避難行動要支援者名簿には、シルバーカード登録の75歳以上の一人暮らしの方、身体障害の1、2級などの方が掲載されます。毎年1回、長寿、障害の方などを合わせ名簿の作成をし、自主防災会に提供しています。災害が起きた時の行動に関しましては、危機管理課が自主防災会議で説明をしていますが、名簿対象者は個別計画を作成します。個別計画には、その方がどこに寝ているかなどの個別の情報が記載されています。自主防災会は個別計画を保管し、災害に備えております。

また、今回の矢作川の避難レベル4での状況ですが、私は避難所担当でしたが、住んでいる皆さんも慣れていないということもあり、私の担当する避難所は避難者が3人しかいませんでした。そのため、地域の皆さんで災害が起きた時、自分たちがどのレベルで避難するのかということを今一度考えていただき、課としても、西尾市としても、市民と一緒に災害時の避難行動について考えていく必要があると思っております。

【宮崎会長】

大変重要な問題です。他にご意見ご質問はございますでしょうか。それでは次の「(2) 第9期計画の施策体系について」、事務局より説明をお願いします。

## (2) 第9期計画の施策体系について

(「第9期西尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 新施策体系整理資料」に基づき事務局より説明)

【宮崎会長】

ただいまの説明につきまして何かご質問ご意見はございますか。

【名倉委員】

先ほども申しましたが、自己評価の部分の説明をお願いします。A B C Dがあるようですが、これは評価なのか、難易度を示しているのか。

【事務局】

資料の自己評価、A B C Dがついておりますけれども、各項目について担当者が自己評価をしたものであり、事業の難易度ではなくて、達成度を自己評価として出させていただいております。例えばAですと順調に進んでいるという評価で、Bですと概ね順調だが改善の余地がまだあるということになっております。

【名倉委員】

少なくともBだと何らかの課題はあるという認識でいいですね。

【事務局】

はいその通りでございます。

【有川委員】

目標値に関する自己評価ということでしたが、Aだったら結果の数値目標が出ている、目標値を上回っている、Bは目標値以下という定義だと思って聞いていました。あくまでも担当者の自己評価ということですか。



**【事務局】**

目標値があるものとなないものがございますので、あるものについては目標値がクリアできているかどうかは1つの判断基準になってくるかと思います。それらも含めて、全体的に見た自己評価となっております。

**【宮崎会長】**

他にご質問はございますでしょうか。それでは続いて「第1回委員会質疑について」事務局より説明をお願いします。

**(3) 第1回委員会質疑について**

(「西尾市の近隣市町との比較」【参考資料】西尾市の高齢者の移動手段について)に基づき事務局より説明)

**【宮崎会長】**

ただ今の「第1回委員会質疑について」、ご質問やコメントはございますでしょうか。

**【齋藤委員】**

丁寧な資料の作成ありがとうございます、良くわかりました。おそらく、施設サービスの給付費が高いのは施設の中でも老健の割合が高いことによるのでしょうか。医療院でしょうか。

**【事務局】**

利用単価でいいますと、医療院が比較的1人あたりの費用が比較的多いという気はしています。ただやはり全体的に施設の定員数が多いところが費用の増加に繋がっているのかと思っております。

**【齋藤委員】**

わかりました。要介護認定率、高齢化率が高い割には低く抑えられていて、すごく頑張っているんだろうと拝見しながら思いました。介護給付費の増加率を抑えるためには在宅介護の推進が大事なのだと思いますので、第9期もその在宅介護をどう充実させるかを引き続きご検討いただければと思いました。

また、資料4についてもよくわかりました。ありがとうございます。自動車、人に乗せてもらう人が多いというところですが、これで移動ニーズが満たされているかというところと必ずしもそうではありません。後期高齢女性の閉じこもりの出現率を見ていただくと、おそらく女性のほうが閉じこもりになっている方が多いと思いますので、その人たちの移動支援ニーズを考えるということは介護予防や重症化予防に大事だと思いました。

**【宮崎会長】**

男女別で見ると面白いのは、シルバーカーを男性は使わないんですね。そう言われてみると、シルバーカーを引いているお爺さんは、お婆さんに比べるとあまり見かけません。

**【斎藤委員】**

多分、女性のほうが足腰が弱る方が多いからだと思います。

**【宮崎会長】**

その他にご質問ご意見はありますか。また、委員会全体を通じてご質問ご意見がございましたらお願いします。それではこれで本日予定していた議題は終了しましたので議長の役を終わらせていただきます。皆様のご協力によりスムーズな進行をありがとうございました。事務局から連絡事項をお願いします。

## 2 その他

### (1) 次回以降の開催予定について

**【事務局】**

次回以降の開催予定についてお話しさせていただきます。次回、第3回策定委員会は11月13日月曜日、午後1時半からの開催を予定しております。場所は1階北口玄関または西口玄関からお入りいただいたところにある多目的室となりますのでよろしくお願いします。また、第4回策定委員会は12月15日金曜日午後1時半から22会議室での開催となりますので、合わせてご予約くださいますようお願いいたします。なお、開催の1週間ほど前に会議資料を送付させていただきます。当日はその資料をお持ちになりまして出席していただきますようお願いいたします。

**【事務局】**

以上をもちまして「第9期西尾市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会」を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

以上